



十日町市【新潟県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年1月 ■人口：53,681人 ■面積：590km²
■担当課：十日町市教育委員会事務局文化スポーツ部文化財課
(平成30年3月現在)



十日町市は、歴史文化の特徴を「豪雪とともに生きてきた人々の知恵が育んだ歴史文化 ～縄文時代から受け継ぐ『豪雪と共に生きる暮らし』『豪雪と友とするところ』」にまとめた。豪雪とともに生きてきた人々の知恵が育んだ歴史文化の証となる文化財等を「地域の財（たから）」として、人々の暮らしの中で保存・活用し、後世に継承していく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

豪雪、川・河岸段丘・山、縄文人と中世武士、
織物と稲作、雪国の暮らし

課題

- ・文化財等の保存策・調査研究の充実と、文化財等の整備や修復
- ・文化財等に触れる機会の創出に向けた普及啓発
- ・地域社会の中での保存活用に向けた関係者の連携

保存活用方針

- ・「地域の財（たから）」の適切な保存
- ・「地域の財（たから）」の普及啓発
- ・「地域の財（たから）」を地域社会の中での保存・活用

保存活用のための取り組み

新・十日町市博物館を拠点とした地域の歴史文化の発信

地域の歴史文化の発信拠点となる新十日町市博物館を平成32年（2020）6月に開館する。新十日町市博物館から歴史文化保存活用区域に向かい、さらに市域を巡ることで十日町市の歴史文化に対する理解を深めることができるよう、市内の施設等の連携を図る。



国宝「火焰型土器」を活用した縄文文化の発信

リオオリンピックに合わせて火焰型土器レプリカをブラジルに寄贈し、東京国立博物館と共同で触れる高精細レプリカを制作するなど、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として日本文化の源流である縄文文化を国内外に発信する事業に取り組んでいる。



文化財の保存・活用活動への市民参加

「十日町市博物館友の会」では9グループが調査・研究活動を行っている。また「十日町市古文書整理ボランティア」、「笹山遺跡ボランティア」、観光協会による「観光ガイド」、地域住民による「清津峡ガイドボランティア」などが歴史文化に関わる活動を行っている。

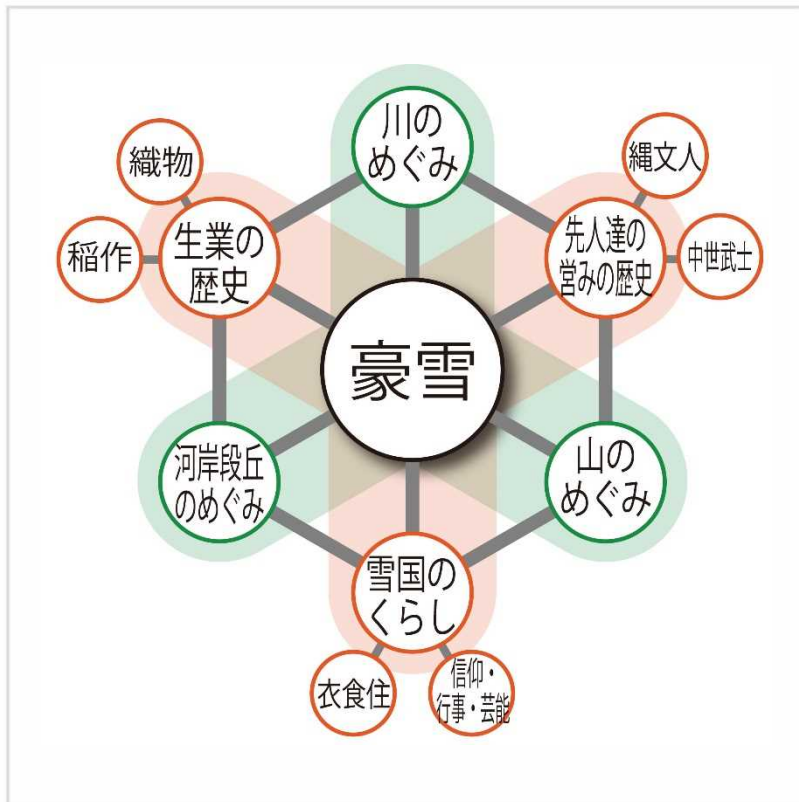


文化財活用のための官民あがてのプロジェクト

「火焰型土器のクニ 十日町 縄文ツーリズムプロジェクト」は、十日町商工会議所が中心となり、行政、観光協会などの関係団体、NPO法人、企業などが参画し、縄文文化・食・雪文化などの地域資源を活用した観光・特産品開発を目的として事業を実施している。



関連文化財群



十日町市の歴史文化は、豪雪を中心として「川、河岸段丘、山から成る〈豪雪が生んだ自然環境〉と「先人達の営みの歴史、生業の歴史、雪国のくらしから成る〈豪雪の中で育まれた歴史文化〉」が互いに連関して形成されてきた。その特徴に基づき、「豪雪と共に生きるくらし」「豪雪を友とするところ」をテーマに5つの物語を設定した。

ストーリー

- ① 雪国に住み継ぐ人々
～実は豊かだった豪雪地～
- ② 雪国の冬仕事
～雪ありて縮あり、雪は縮の親～
- ③ 雪国の食生活
～ダイコとココロ、ツケナとニーナ
- ④ 雪国のごったくとごっつお
～めでたいものは大根種～
- ⑤ 雪国の美
～豪雪が育む大地の芸術～

策定後の成果（見込まれる効果）

① **地域への誇りと愛着心の醸成**
歴史文化基本構想策定記念講演会でのアンケートでは、構想について賛同する回答が多く得られた。合併による新市誕生後、市全体の歴史文化をまとめたものがなかったが、構想策定を機に未指定文化財等への関心が高まり、「大地の芸術祭」開催の効果と合わせて地域への誇りと愛着心の醸成が見込まれる。



② **歴史・文化による地域活性化**
国宝・火焰型土器の東京オリンピック・パラリンピック聖火台モチーフ採用に向けた市民を挙げた運動をはじめ、商工会議所や観光協会との「縄文女子ツアー」、「豪雪体験ツアー」の実施、縄文文化をテーマにした大手企業とのコラボレーション企画など、歴史・文化による地域活性化への取組が着実に動き出している。



③ **地域内外からの支援・交流**
人口減少などにより祭や行事の実施が困難な状況も見られる中、大白倉地区では「もみじ引き」にイギリスAAスクールが人的協力をし、「バイトウ」は地域外からの多くの支援を得て毎年実施されている。また、市指定文化財「旧村山家主屋」では坂口安吾ゆかりの新潟市や桐生市との交流も行われている。

